



RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2020

第20回

住宅課題賞 2020

建築系大学住宅課題優秀作品展



一般社団法人
東京建築士会
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は20回目を迎えましたが、年々参加大学も増え、本年は41大学53学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から今年はオンライン審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クワッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2020年12月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、令和元年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版(縦841mm×横594mm)レイアウトは縦使いに統一、1枚とする。

厚さ5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。

大きさは敷地含め、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内とし、1点とする。

但し、縮尺と模型サイズ(敷地含む)が合わない場合は、規定サイズ内に収まる縮尺に調整すること。

【 賞 】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点を選出する。

【審査方法】(オンライン審査)

例年、公開審査としていたが、今年は新型コロナウイルス感染防止対策からオンライン審査とする。

オンライン審査は審査員、出展者および運営者のみで開催。

【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

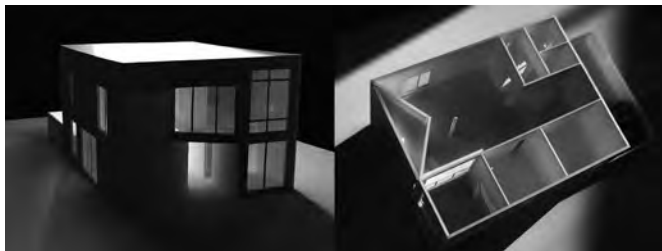
審査員：伊藤 暁(伊藤暁建築設計事務所／東洋大学理工学部建築学科准教授)

萩原 剛(萩原剛建築設計事務所／早稲田大学芸術学校教授)

原田 麻魚(MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)

古澤 大輔(リライト_D／日本大学理工学部建築学科准教授)

司会進行：城戸崎 和佐(城戸崎和佐建築設計事務所／京都芸術大学教授)



01 風景の中の住宅

計画地は足利市の国宝銀阿寺の真向かいに位置する住宅地。ビルに囲まれ、人に揉まれながら帰る家はどうな場がよいだろうか。そこで、住戸内を貫通して、まちと自然の気配を取り込み、緑に包み込まれるような住宅を提案する。普段の生活のなかで、外の空気を吸い込み、緑の移ろいを楽しみ、空の広さを感じる。そんな自然と触れ合う暮らしがこれからの都市生活を豊かにするだろう。



楊 美鷺 (ようびし) 足利大学

工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース / 4年

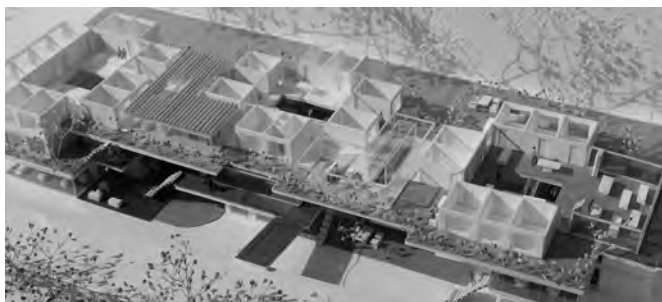
課題出題時学年:2年

出題教員名:渡邊 美樹、藤谷 英孝、大野 隆司

指導教員名:渡邊 美樹、藤谷 英孝、大野 隆司

教員推薦 コメント

本作品は敷地境界を超えて周辺環境を精緻に読み込み、それを住宅に引き込む設計手法が評価された。真向かいの銀阿寺の緑、歩道のにぎわいを住宅の裏の庭に誘い込むことで、住宅内部にひろがりや豊かさが生まれている。〔大野 隆司〕



02 茨城大学学生寮+国際交流施設建替計画 -Hitachitaga station dormitory-

駅前に建つ学生寮を含む複合施設である。2セットのLDKを囲む8～11居室からなるユニットが各階に3つずつ配置されており、ここでは中央の吹抜けを介して上下階の学生を巻き込む「表」のコミュニティが形成されるのに対し、立体的な外部空間や図書館等を挟んで近接した2ユニットの半分の居室同士が別のユニットを構成することで地域住民を巻き込む「裏」のコミュニティを形成している。



佐藤 天彦 (さとう はるひこ) 茨城大学

工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:内藤 将俊

指導教員名:内藤 将俊、稲用 隆一

教員推薦 コメント

工学で結ばれた多分野の入居学生による日常的な交流と社会の一員として周辺住民と創出する、より開かれた交流による2つの生活の間を各住人が自然に往来することを誘発する極めて洗練されたシステムの提案である。〔内藤 将俊〕



03 集まって住う「街なか暮らし」

宇都宮市街地にある都市河川の側に、人と自然が絡まるような集合住宅を計画します。プライバシー優先の住戸とするのではなく、各住戸を角度をつけて並べ、積層させることで、外部環境と住戸、住戸と住戸の間に関係性を持たせた。住戸の配置によって生まれた外部空間には、植栽や外階段を設け、人と自然が建築に絡まりながら共生しているようなデザインとし都市河川側という環境条件に合うように計画した。



亀谷 瑞熙 (かめや みずき) 宇都宮大学

地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:慶野 正司、大嶽 陽徳

指導教員名:慶野 正司、大嶽 陽徳

教員推薦 コメント

箱型の住戸をずらしながら積層し、それにより生まれた外部空間に植栽を配することで、自然と建築が立体的に関係づけられた構成で、現実の都市環境の中で調整し、リアリティあるものとして提案している。〔大嶽 陽徳〕



04 ○○併用住宅の設計

目黒川沿いの散策路に面し、北側の隣地に小公園がある敷地にカフェ兼バーの店舗併用住宅を提案する。賑やかな道と静かな公園、外部と内部の関係、昼の姿と夜の佇まいなど対比関係にある要素をRC構造内の「かたい空間と柔らかい空間」に関係づけ、動的なテラスから内部へ、複数人から個人へと、静的空間への変化を表した。その延長として公園は個人ののためのソシオフォーガルの配置とした。



酒井 美聡 (さかい みさと) 大妻女子大学

社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:八木 敦司、柳 秀夫

指導教員名:八木 敦司、柳 秀夫

教員推薦 コメント

川沿いの活気ある街並みと、静かな小公園に挟まれた敷地に、店舗併用住宅の提案を求めた。この案は、南北の対照的な環境条件をデザインのきっかけとし、建築に関わる様々な要素での「対比」関係を、空間構成に結実させた秀作である。〔柳 秀夫〕



05 50人が暮らし、50人が泊まれる、この先の暮らしの場

計画敷地である寿町は日本三大ドヤ街の一つで主に生活保護を受けている高齢者が集まる。密に並ぶ同型の簡易宿泊所の間取りは三畳一間。外がリビング化し、雰囲気は悪く、外部から人が来ることはほとんどない。そこでダブルグリッドを使い、空間を自由に作ることで、人を呼び込み、人と繋がり、人を楽しませる建物を設計し、新しいきっかけが生まれることを狙う。



桶谷 彩乃 (おけたに あやの) 神奈川大学

工学部 建築学科 建築デザインコース / 4年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 曾我部 昌史、吉岡 寛之、岡村 晶義、佐々木 龍郎、渡瀬 正記

指導教員名: 佐々木 龍郎

教員推薦 コメント

RCと木造が混在する周辺環境に対し、中間的なスケールを持つダブルグリッド構造で全体を構成した秀作。銭湯機能と連携し街に開く路地、地域独特の最小限就寝空間と利用者の自律を促す豊かな共用部等を実現している。〔佐々木 龍郎〕



06 あり続ける住宅

まず強い壁を作ろうと考えた。壁は小さいエレメントが厚みを減らしながら積みあがっている。壁の内側には柔らかな生活がある。壁には隙間がある。隙間からは壁の内側にある生活が外へと染み出している。小さな住宅が、生活の変化、用途の変化に合わせて積み上がり、成長する。町に対して強く存在し、隙間によって開き、ともに変化する。だから、黄金町という町にあり続けることができる。



香川 唯 (かかわ ゆい) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 村山 徹

指導教員名: 粕谷 淳司

教員推薦 コメント

下層から上層へと厚さを減じながら積み上がっていく組積の壁で、時間と共に成長・変化することが想定された住宅。黄金町に残るために「強く、かつ開かれた壁」と「単純な原理による複雑な空間」が追求されている。〔粕谷 淳司〕



07 “小住宅” 一大きなスペースと小さなスペースを持つ住まい

家の中を通りぬける土間には内外を緩やかに繋ぎ、庭の緑や光を取り入れる。土地の高低差を使用し、平屋の中にも公的な空間と私的な空間が段階的に生まれるようなプランニング。下足部分はアクティブに、上足部分ではゆったりと寛ぐことのできる空間づくりを目指した。アクセスの良い都内でありながらも緑と住宅が共存する街で、夫婦2人が趣味を楽しみ、豊かに暮らすための住宅の提案。



小林 芽衣菜 (こばやし めいな) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 堀 啓二

指導教員名: 堀 啓二、上西 明、伊礼 智、河原 うらら、六角 美留

教員推薦 コメント

課題は50代の子供が巣立った後の自転車趣味に持つ夫婦の終の住処です。敷地の高低差を利用し斜面化し自転車を通り抜けができるなど敷地全てを趣味の場とし、土間空間、室内縁側など中間領域を持つ日本民家の構成をうまく利用した内外が一体となった居心地の良い住まいです。〔堀 啓二〕



08 デザインスタジオA(住まいと環境)

落水荘の分析を通してライトの有機的な建築の考え方と、x軸・y軸方向に伸びるスラブの間に広がる空間を意識し住宅設計に反映させた。空間の変化を床高の違いで演出し、コアとスラブで建物を構成することを設計時の主なコンセプトとした。垂直方向、水平方向に異なる部材を用いて建物の水平線を強調し、特殊な敷地のコンテキストを汲み取りながら、プライバシーに配慮した柔らかく温かい空間を生み出した。



吉岡 萌 (よしおか もえ) 慶應義塾大学

総合政策学部 総合政策学科 / 2年

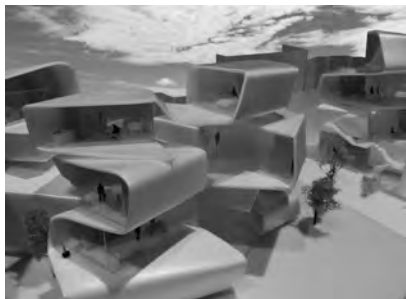
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 坂 茂

指導教員名: 坂 茂、原野 泰典、城所 竜太

教員推薦 コメント

吉岡さんの案は、住宅が隣接する北側に構造壁やコアを配置してプライバシーを確保しつつ、公園への眺望を確保できる場所にリビングを配置するなど、落水荘の分析から得たコンセプトを藤沢市という現在の都市空間に対してうまく当てはめることができている点で優れています。〔坂 茂〕



09 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

微気候受容体—ねじれた形から生まれる住まい—植物のように、環境条件の悪い場所でも、さまざまな角度からの光や風を室内に取り込み、住戸の内外の境界関係を曖昧にし、都内で暮らす領域感覚の拡張ができる集合住宅を提案する。ねじれた1枚のリボン状の構造体が連続してスラブと壁を構成し、その中に住居空間を配置することで自然要素を享受できる新たな空間・住まいを目指した。



藤牧 舞 (ふじまき まい) 工学院大学

建築学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:西森 陸雄 指導教員名:西森 陸雄、藤木 隆明、伊藤 博之、星 卓志、Kearney Michael、金箱 温春、押尾 章治、沢瀬 学

教員推薦 コメント

この作品は周囲の都市環境を肯定するでもなく否定するでもなく、空気のように周囲の環境を受容しながら、しかも全く新しい生活の風景を生み出しているところが素晴らしい。連続するスラブ状の形態もうまく整理されています。〔西森 陸雄〕



10 工学院大学国際留学生寮

大学に隣接した敷地に留学生のための学生寮を提案する。それぞれ異なる国籍、宗教、概念、マナー、思想、価値観などを持つ留学生が集まる学生寮は強い個性が暮らす場となる。そんな場で、できる限り多くお互いを共有し、影響し合う空間として、生活導線と共有スペースが融合した、ひとつながりの共有スペースを持つ学生寮を提案する。



遠山 亮介 (とおやま りょうすけ) 工学院大学

建築学部 建築デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:2年 出題教員名:櫻原 徹 指導教員名:伊藤 博之、大内 田 太郎、片桐 和也、小島 光春、佐々木 将光、藤本 良寛、林 孝行、細谷 功、間下 奈津子、山門 和枝、山崎 健太郎

教員推薦 コメント

建物をS字型とすることで、内部に通抜け可能な居場所の連続を作りつつ、大学キャンパスからの軸線を広場で受け止め、反対側では住宅街との適切な関係を作ることに成功している点を高く評価しました。〔伊藤 博之〕



11 外のある家

住宅は「部屋⇄部屋」「家⇄外部」というような区切られた関係性があることにより、互いが同じ部屋、同じ空間にいないと交流は起こらない。それによって減少したコミュニケーションを「外」として捉え、住宅の中に取り込もうと試みた。本設計では「棚壁」という穴の開いた壁で建物全体を構成し、それを多様に用いることでコミュニケーションが発生するという住宅を計画した。



北林 葉 (きたばやし しおり) 工学院大学

建築学部 まちづくり学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:富永 祥子 指導教員名:木下 庸子、藤木 隆明、篠沢 健太、市川 竜吾、岩堀 未来、萱沼 宏記、高呂 卓志、高濱 史子、原田 智章、安田 博道

教員推薦 コメント

「外」という語を「コミュニケーション」ととらえ、外壁の分厚い「棚壁」がディスプレイ空間や、人の居場所となって、内外に対話が生まれる。シンプルなアイデアによる豊かな住環境の創出が評価されました。〔木下 庸子〕



12 世田谷区「地域共生のいえ」

地域交流の拠点となるこの家は家主だけでなく、多くの人々が利用する。敷地の入り口から順にオープンからプライベートへとグラデーションのように空間を配置。この家の顔である交流スペースは畳エリア・リビング・キッチンが一部屋に集約され、会話・ゲーム・食事等様々なかたちの交流に対応する。玄関でもある縁側は地域の人々とこの家だけでなく、別棟に暮らす祖母と家主一家をも繋ぐ。



後藤 沙綺 (ごとう さき) 国士舘大学

理工学部 理工学科 建築学系 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:南 泰裕、植 美雪、鈴木 丈晴、須川 哲也、蔵楽 友美、吉本 大史 指導教員名:須川 哲也

教員推薦 コメント

後藤さんの作品は、長い敷地を活かしてランダムにボリュームを配置した上で、それぞれに縁側を設置する案である。それによって内外の仕切りをなくし、地域共生のスペースを外部へと繋げるアイデアが評価された。〔南 泰裕〕



13 ダガヤサンドウに住むとしたら

ダガヤサンドウは都心でありながら閑静な住宅街である。住宅が密集する中「プライバシーを守りつつ開放的で住民同士の繋がりを得られる」集合住宅にしたいという思いで設計した。各部屋からアクセスできるテラスと、リビングに設けられた大きな窓で家に居ながらも外との繋がりを感じられる開放的な空間を作り出した。また、緑が溢れ圧迫感のない形状にすることで周辺地域に溶け込ませた。



仲田 来未 (なかた くるみ) 駒沢女子大学

人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

指導教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

教員推薦
コメント

集合住宅において外部空間と緑を主題とし、多孔質なジグザグ建築を解答とすることで快適な住環境だけでなく住戸間の関係や周辺への配慮にも提案が及ぶことが評価された。鳩森神社の富士塚と共鳴する行まいも魅力。〔田中 昭成〕



14 集まって暮らす、働く

入れ替わり立ち替わりの激しい浅間通り商店街で、地域に根付いた生業を起点に長期的な再生策を考えます。また、通りを分断する“間”に着目し、独特な“間”を持つ静岡の県民性に例え、空間的、時間的なバランスを作り出します。この集合住宅は家族の風景を“4畳半”という“間”で表現し、その“間”を母体にあらゆる設備機能を収束させ、“間”から発展させるような計画になります。



疋田 大智 (ひきだ だいち) 静岡理工科大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:田井 幹夫、脇坂 圭一

指導教員名:田井 幹夫、脇坂 圭一、八木 佐千子、佐々木 司

教員推薦
コメント

商店街全体と建築単体を同時に考える難しい課題である。疋田君の作品は積極的な生業の提案は弱いものの、単位空間と中間領域の構成が生活を豊かにし、街全体に波及していくことを期待させ、全体として成熟度が高い。〔田井 幹夫〕



15 シェアのハウス

清澄白河のシェアハウス。人々の存在感や周囲の自然環境からうまれるゆるやかな空気感をシェアしながら暮らす。大空間の中に螺旋状に個室と共用部を配置していくことで、建物内の人の存在感を感じることができ、少しずつ異なる高さから取り込んだ自然環境を一部に留めることなく全体に届けることを可能にした。ふと深呼吸できるような、日常のちょっとしたすきまをここから創り出す。



山田 楽々 (やまだらら) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 APコース / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:谷口 大造、山代 悟、大成 優子

指導教員名:谷口 大造、山代 悟、大成 優子

教員推薦
コメント

何かをシェアすることを目的化した作品が多い中、山田楽々さんの作品は、住民同士がシェアしているものは空気感だけのように感じた。個々の緩い共同体のあり方に着目し、独自の世界観を展開した点で評価したい。〔谷口 大造〕



16 地域と交換する集合住宅 ～もらい・あたえる恒常的地域をつくる～

近年、近所付き合いのようなコミュニティは次第に薄れつつある。一方で敷地の佃では、特徴的な狭い路地を隣の家同士で共用するなど、かつての住人同士のつながりを垣間見ることができる。この集合住宅では既存の家と路地という構成を反転。路地のような小さな部屋に暮らす住人同士が隣り合う庭を共用することで、新しいコミュニティが佃のまち全体に広がっていくことを期待する。



前田 菜帆 (まえだ なほ) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 SAコース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:原田 真宏

指導教員名:トム・ヘネガン、田中 厚子

教員推薦
コメント

佃の魅力的な街区の道路や路地におけるコミュニティの生活に着目し、既存の空間構成を反転させた計画。住宅の幅を狭め、路地を広げた外部空間を共有のコミュニティと呼ぶ「理想のコミュニティ」を提案した。〔トム・ヘネガン、田中 厚子〕



17 辰巳の30戸集合住宅 断面で設計する

広大な団地が広がる辰巳を敷地とし、各住戸の独立性を維持しつつ住民同士の繋がりを持つことができる新しい集合住宅の在り方を提案した。開放的なLDK階と閉鎖的な寝室階から成るメゾネットの住戸を、共用エリアをクッションにしながら配置している。また、地上階には住戸を配置せず広場にすることで、住民以外の人々も集う町の中心となる集合住宅を考えた。



加藤 里歩 (かとう りほ) 芝浦工業大学

建築学部 建築学科 UAコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 赤堀 忍

指導教員名: 田名後 康明

教員推薦
コメント

外向的な階と内向的な階からなるメゾネット住戸を、口の字型プラットフォームに市松配置することで、性格の異なる空間同士が相互補完的に間を形成し、都市やコミュニティに開かれた住まい方を可能にしている。〔田名後 康明〕



18 「長屋商店街」—商店街に暮らす—

この街は音や光、人で溢れている。その賑わいに喧噪を感じたことはないだろうか。それが当たり前とするならば、喧噪に最も近いこの商店街で暮らす私たちはきっと、本来そこにあったであろう感覚を無意識のうちに見逃している。そこでこの商店街に、街の喧噪から逃れ、自らの余地となる空間を与える。閑寂に置かれた境地、この建築の中で、私たちは暮らしの中で生まれる一瞬の感覚を再び呼び起こすのである。



高木 さくら (たかぎ さくら) 昭和女子大学

環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 杉浦 久子、森田 祥子、御手洗 龍、田井 勝馬

指導教員名: 森田 祥子

教員推薦
コメント

瞑想し、生きることに向き合うための家である。ざわつく街を遮断しつつも、光や風雨といった地球環境を取り込むことで外部との関係を密やかに結んでいる。執拗で繊細な空間体験への希求を高く評価した。〔森田 祥子〕



19 透明ないえ

人は1日の中で仕事の時間、個人の時間、家族の時間と様々なシーンを持っている。しかし私たちはスーツに身を纏い電車を乗り継ぎ場を変えその連続したシーンをあえて一枚一枚に切り離そうとしていないか？そこでそれらを積層させメリハリを与えながらも、その隙間を緩やかにスロープで繋ぐことで、シーンの切り替えを自然に心地よく感じる連続した透明性を持った住宅を計画した。



工藤 遥菜 (くどう はるな) 女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 式地 香織、松本 加恵

指導教員名: 式地 香織、松本 加恵

教員推薦
コメント

私たちは「いえ」を描くとき、無意識のうちにハコをイメージしてしまっていないか。そこで「いえる」ことの集積として、まちや世界とつながる場として、住宅を提案するというテーマに真摯に取り組んだ作品である。〔式地 香織〕



20 《風景の中の住空間》〜くつろげる週末住宅〜

この週末住宅では人の生活を額縁で切り取る。森を背に悠然と佇むこの住宅は、額縁しか見えない軽やかなフォルムで正面から奥に空間がすっきりと抜けている。2つの大きな引き込み式の開口部は完全に開放することができ、施主様の要望である「外のような中、中のような外」を実現する。夜には室内の暖かい光が漏れ、生活そのものが一つの絵のようになるだろう。



園田 こ春 (そのだ こはる) 多摩美術大学

美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース / 2年

課題出題時学年: 1年

出題教員名: 田淵 諭

指導教員名: 田淵 諭、松澤 米、谷 ひろし、湯澤 幸子、田嶋 豊、高橋 靖一郎

教員推薦
コメント

この住宅は、機能全てが額中に納められリビングは自然と一体化し、また、この住宅を遠くから望み見る者にとっては、建築が背景の自然豊かな景色を収める絵画の額の役割を担っている。額と住宅の関係が美しくかつ独創的。〔田淵 諭〕



21 MAD City House

松戸市内を流れる坂川に臨み閑散とした広場に住宅を提案する。川に張り出すこの家は、私の生活に澄んだ情景と川音を引き寄せ、地上には日陰をもたらす。広場の段差を利用した縁側に佇み、日没後は趣味のプロジェクションマッピングを川や障子に映して、人と語らいながら眺めて過ごす。住宅から滲む生活の明かりが、居場所を見つけにくかった広場を暖め少しずつ憩える空間へと変えていく。



大塚 仁弘 (おおつか まさひろ) 千葉大学

工学部 総合工学科 都市環境システムコース / 3年

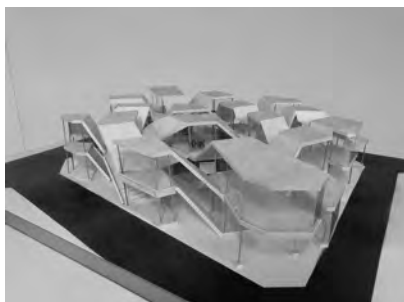
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

指導教員名: 峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

教員推薦
コメント

出展作品は、敷地の持つポテンシャルを読み込んだうえで、個人の生活と接地する広場へ提供された「灯り」の装置がバランスよく設計され、全体が魅力的なランドマークとしてまとめられている点が評価されました。〔森永 良丙〕



22 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計

7戸による小規模集合住宅には、多様な世帯の居住者が、「顔が見える暮らし」を目指すオーナーに共感し居住する。交差し、編み込まれた各住戸間にできる空間は多様なコミュニティを生み出す。生活シーンの変化とともに関わる世帯も変化し、各住戸が対価になることで「環境」に住む感覚を与える。明快な空間作法によって生まれる死角には、それぞれのプライベートが存在する。



石井 遥菜 (いしい はるな) 千葉工業大学

創造工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 石原 健也 指導教員名: 佐々木 珠穂、武田 清明、中川 純、村田 龍馬、多田 修二、田島 則之、石原 健也、今村 創平

教員推薦
コメント

多様な暮らしが集合した風景を求めた課題に対し、シンプルかつダイナミックな構成形式により、「各住戸の広がり」と「場所に住む感覚」を生み出した点が評価された。〔石原 健也〕



23 都心の住宅地に建つコンドミニアム

都心の集合住宅での一人暮らしでは、個人の時間はもちろん建物内でのコミュニケーションが暮らしを豊かなものにする。この集合住宅は住人がそれぞれたった一つの空間を楽しめるよう、各部屋の間取り・広さ・天井高・景観がそれぞれ異なっている。また各階にある窓に面したコモンスペースや中央の吹き抜け部分にある二重螺旋状の階段によって住人同士の自然なコミュニケーションを促す。



滝 望 (たきのぞみ) 筑波大学

芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 花里 俊廣

指導教員名: 花里 俊廣

教員推薦
コメント

今年は、コロナ対策の時間が長く、家で考えることが多かったせいかコンセプトがちであった。そんな中、真中に光井戸と階段室をとるという単純な戦略ながら形から入るアプローチで、課題を解いており評価が高かった。〔花里 俊廣〕



24 動物とくらす家 ウチの生活とノトの生活が重なる家

現代のデジタル社会生活の中で見えない壁ができてしまった3人家族に新しい家族、犬＝人と暮らす家を設計する。敷地いっぱいに有機的に張り巡らされたヒダの壁により、外部が入り込んだり、内部が出たり、犬が自由に行き来できる空間へと変わっていく。そうして内と外がひっくり返り始め、窓はフレームとなり家族内の距離感だけではなく街の人とも打ち解ける空間、場所となる。



渡邊 優太 (わたなべ ゆうた) 東海大学

工学部 建築学科 / 3年

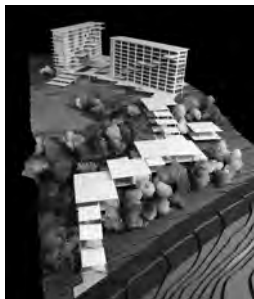
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 河内 一泰

指導教員名: 佐屋 香織

教員推薦
コメント

動物を一住人とみたま、常識としていた人の寸法や平面の構成、内外の境界を疑うことがこの課題の肝である。渡邊君の案はヒダ状の壁を平面的に組合せ、人と犬、内外を重ね合わせて分けられないことで、解釈に幅を持たせた点が良い。〔佐屋 香織〕



25 多摩NT 豊ヶ丘・貝取団地一部再生計画

地形により団地内外の分断が生じている多摩NTの団地の再生計画。住棟とバス通りの間の大きな高低差を繋ぐエスカレーター棟や、住棟の足回りの空間、さらにはそれらに連続する住棟の各フロアからの張り出しデッキなどにより、都市・団地のスケールから各フロア・住居のスケールまで、様々な視点で人々の生活を繋げ、「集まって住む」ことのポテンシャルを引き出すことを考える。



藤堂 真也 (とうどう まさや) 東京大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 大月 敏雄 指導教員名: 大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨングン、金野 千恵、武井 誠、原田 麻魚、松島 潤平

教員推薦
コメント

既存住棟から張り出すデッキを、上層部から下層部へ、さらに斜面緑地下の幹線道路へ自然に連続させるとによって、多摩ニュータウンの課題である幹線道路の走る谷筋と生活空間である尾根筋の分離の解決を図った。〔大月 敏雄〕



26 テラスハウス 集まって住むことの魅力をスタディする

一度外部空間に出て入る小さい部屋が、テラスにあると面白いのではと考え設計した。家族によってその離れの部屋の使い方は様々であり、日常空間から離れ、家族との会話や一人になりたい時、趣味の時間をそこで楽しむのも良いだろう。また、1階の中庭からウッドデッキのある2階の中庭、さらに離れの3階へとつながり、閉鎖的になりがちな縦長の内部空間に開放感を作り出した。



伊野 文乃 (いの あやの) 東京家政学院大学

現代生活学部 生活デザイン学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 前鶴 謙二
指導教員名: 原口 秀昭

教員推薦
コメント

茶室風の小さな離れをテラスに配置し、中庭と相まって奥行きのある空間を内包している。また丸窓やグリッド窓のパターンを変えるなど、単純になりがちなテラスハウスに新たなデザインの可能性を見出している。〔原口 秀昭〕



27 住宅II

尾瀬ヶ原、広大な湿原に“行き。と”帰り。の二本の木道がずっと、ずっと遠くまで続いている。夏になると登山者たちが通り抜けるその木道を、少しだけ拡張し生活の道として使ってみる。登山者に紛れるように木道に住む人、その食卓には既存木道から誘われた登山者たちがつくかもしれない。この住宅はどこまでも広がる湿原であると同時に長く狭い道幅のみ過ぎず住宅でもある。



堀之内 ゆみ (ほりのうち ゆみ) 東京藝術大学

美術学部 建築科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 増田 信吾、大坪 克亘
指導教員名: 青木 淳

教員推薦
コメント

住宅課題で学生に求めていることは、どういうところで、どういうふうに住生活するのが幸せか、徹底的に自分に問いかけること。結果、思いがけない「かたち」の家にたどり着く。それにもっとも真摯に向かい合った案です。〔青木 淳〕



28 集合住宅の設計

北青山の地に集合住宅を設計する。ブランドショップが立ち並ぶ大通りや商店街に囲まれた敷地では、この地に残されたほんの少しの「子供が安心して遊べる空間」で子供が鬼ごっこなどをして遊んでいる。このような敷地条件から南側に位置するランドスケープ、階段状に配置した住戸、性質差を生かした2つのオープンスペースが混ざり合うこの地にあった集合住宅を設計する。



山内 峻平 (やまうち しゅんぺい) 東京電機大学

未来科学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 山田 あすか
指導教員名: 河野 有梧

教員推薦
コメント

特性の異なる共用空間を提案したこの作品は、現在から次世代に向けての思考から生まれているが、かつての街並の軒先や縁側で育まれた空間性をも備え、建築を通して様々な“縁”が生まれる期待感の高い秀作である。〔河野 有梧〕



29 真のグリーンアパートメントを目指して

過去の代官山は雑木林で囲まれており、自然の中で自然の力を借りて生活していた。しかし、現在の代官山は自然離れしている。そこで過去の植生のクヌギとコナラの雑木林を復活させ雑木林との関係をもつ新しいライフスタイルが展開される集合住宅を提案する。それにより、住人だけでなく代官山全体の自然への意識が変化していく。



片岡 空良 (かたおか そら) 東京都市大学

建築都市デザイン学部 建築学科 / 3年

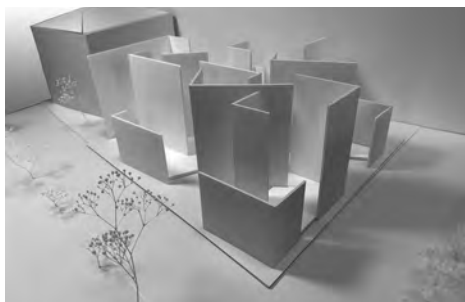
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 手塚 貴晴

指導教員名: 栗田 祥弘

教員推薦
コメント

全ての部屋から調理フードの排気が屋上へと伸びている。今時薪の煙が立ち上る様を見ることはないが、人の営みを表現するには実に効果的な手法である。それがしっかりと空間構成とマッチしているのは巧みである。〔手塚 貴晴〕



30 名作から考える

フィッシャー邸およびその設計手法を分析し、空間の捉え方やしつらえを読み解くことから始めた。そこで抽出した「壁の為す形態と機能の関係性」をコンセプトとなる構成因子とし設計に取り組んだ。当住宅は空間に名前を定義せず、空間を構成する壁に機能としての名前をつけている。壁を介してまち・自然・建築が緩やかにつながり、曖昧な境界のなかに緑・陽・家族の居場所をつくる。



高吉 海斗 (たかよし かいと) 東京都立大学

都市環境学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 富永 大毅、小泉 雅生、伊藤 喜彦

指導教員名: 富永 大毅、小泉 雅生、伊藤 喜彦

教員推薦
コメント

名作住宅を参照し設計する住宅課題である。カーンのフィッシャー邸を彼なりに分解しL字の壁が林立する風景の中に、人同士や人と町の距離をコントロールできることに気づき、愚直に挑みながらも、少ないパラメータのデザインにまとめた鮮やかさが高く評価された。〔富永 大毅〕



31 根津に住む

古くからの住民も多く昔ながらのコミュニケーションが残る根津で、近隣住民が多く行き交う角地に建つ多世帯住宅。建物は中央吹き抜けで繋がれた3つの棟で構成され、棟の隙間からは光、風、人の視線が通る。各世代の街との関わり方を考えると同時に、根津のコミュニティに住人を誘い出し、時には家の中にコミュニティを引き込む、内と外をつなげる住宅を提案する。



近藤 亜紗 (こんどう あさ) 東京理科大学

工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 池田 雪絵、石橋 敦之、伊藤 孝仁、船木 幸子、峯田 建、熊谷 亮平

指導教員名: 池田 雪絵

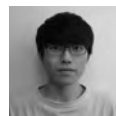
教員推薦
コメント

個の領域間の空隙が光、風、風景を呼び込み、3世代を結ぶVOIDがフリースペースを介してまちに繋がる。個 / 共同体 / まちの内と外、という入れ子のような異なるストラクチャーが反転し、出会う。新しい繋がりや表象とメビウスのような複雑性に魅力を感じた。〔池田 雪絵〕



32 私が将来住もう住宅

現在住まう場所の周辺に敷地を設定し、将来の住宅を設計するこの課題では、土地の特徴を最大限生かし、より豊かに住まうことを考えた。これは光のチューブという操作の提案である。これが光と人の通り道となり、室内に光を供給し、じめじめする北側に光を落とす。太陽の動きを敏感に感じとり、季節や気分によって居方を変えることで豊かに暮らす。



太田 尚輝 (おおた なおき) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 岩岡 竜夫

指導教員名: 森 清敏

教員推薦
コメント

擁壁の一部を壊して高さの異なる二つの道路に接道させ、街との新たな繋がりをつくり、光と風を通す「チューブ」と名付けた魅力的な空間によって内外および戸内の適度な距離感をつくる等、完成度の高い住宅である。〔森 清敏〕



33 不純な住宅

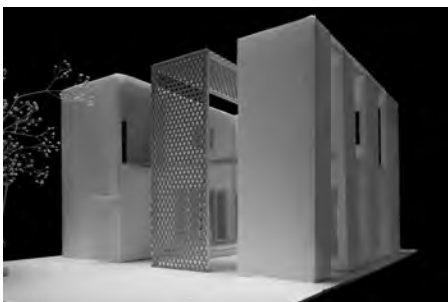
生活リズムや年齢性別も異なる6人家族の住宅。自室と社会の往復で一日を終えるのではなく、新たな「よりどころ」をつくりだし、その瞬間に誰と・どこで・どのように過ごすかを自由に選択できる住宅を提案する。壁やスキップフロア、建具などを用いて適度な距離感を保つと同時に、自身のアイデンティティによって空間を分節することで価値観の共有とともに社会への広がりをもたらす。



猪瀬 愛可 (いのせ まなか) 東洋大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 篠崎 正彦
指導教員名: 岡本 和彦

教員推薦 コメント

複雑な家族が1つの住宅をシェアすることに対する積極的な提案となっています。占有する空間を最小限とし、多様な空間の中から行為に最適な場所を見つけ出し、新しい関係性を作りあげていく様子が想像できます。〔篠崎 正彦〕



34 独立住宅(3世代1世帯)の設計

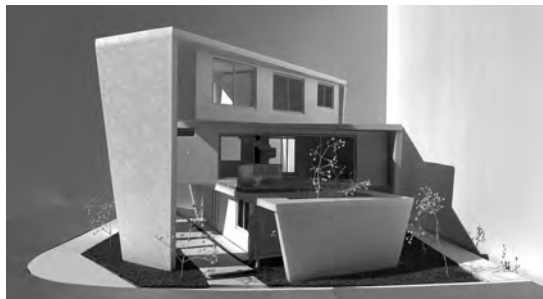
住宅を設計した後にその住宅の30年後を考え、改修するという課題。改修するにあたって減築を行ったが、住宅という愛着のある建築の減築とはただ「実」を「虚」へとしてしまうもので良いのだろうか。本提案では一部を「半実体」として減築することで、かつてそこにあった空間の記憶を感じる場へと変容させつつも、住人が新たな体験を発見できるような過去と今を繋ぐ住宅を計画した。



稲葉 渉 (いなば わたる) 東洋大学
ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 内田 祥士、柏樹 良、仲 綾子 指導教員名: 内田 祥士、柏樹 良、仲 綾子、小林 進一、高橋 直子、井上 見良、窪川 勝哉、佐々木 龍郎、船木 幸子

教員推薦 コメント

時を経て5人家族から夫婦2人へと変化する状況に対して、ファサードを構成する3つの壁が、細分化されていた室をそれぞれの居場所を維持しつつ繋ぎ、さらに内部を外部に滲み出させている点で卓越している。〔仲 綾子〕



35 私の舍

日時計の公園がある「時の広場」に住宅を考える上で、太陽と人の生活時間は深く関連していることに注目した。三階建の住宅はフロアごとに役割を持たせ、役割にあった角度に建物をずらすことで、必要な時間帯に太陽光が差し込むよう計算して考えた。また真南に位置する離れた建物は、建物全体への日時計としての役割があり、時間の経過と共に陰と陽を作り出す。



浅見 駿弥 (あさみ しゅんや) 日本大学
芸術学部 デザイン学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 熊谷 廣己
指導教員名: 熊谷 廣己

教員推薦 コメント

太陽の動きと人間の生活の関係を捉えて、日常生活を創出し、立地特性に呼応させながら周辺環境をも取り込んだ住宅である。内からも外からも思考されている点が魅力である。特に模型による空間スタディがバワフルであった。〔熊谷 廣己〕



36 集住体のデザイン 街に開く集住体—神楽坂の集合住宅

趣味は人生を豊かにするために必要な要素である。そして、子供から大人まで全ての人が何らかの趣味を持っている。しかし、それらは共有されず自己で完結され発信されることは少ない。そこで、各住戸に展示室を設け住民は好きな時に自分の好きな趣味を少しだけ開く。趣味は住民同士だけでなく、街に開かれ新たな出会いや可能性を生む。そんな「趣味開き」ができる集合住宅の提案である。



福屋 亮平 (ふくや りょうへい) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 北野 幸樹
指導教員名: 山田 裕裕

教員推薦 コメント

神楽坂の路地空間に着目し、他者とともに自己表現し街に開く「表路地」、住まいとしてのたたずまいを持つ「裏路地」に整理し、路地相互を広場を介して交差させ周辺環境との新しいかわり方を問いかけた力作である。〔山田 裕裕〕



37 8mキューブの空間

8m×8m×8mの立方体の中に「筒」という秩序で小住宅を設計する。長い筒、短い筒、太い筒、細い筒を組み合わせることで「内」と「外」がひっくり返ったような空間をつくる。



高橋 和音 (たかはし かずね) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:田邊 曜、篠崎 健一、泉 幸甫

指導教員名:田邊 曜、篠崎 健一

教員推薦 コメント

筒による構成案は毎年あるが、幾何学的な秩序や住む機能というより、身体感覚を伴う多様なスケールや光の明暗、こもる響くといった、柔らかい対比が作りだす空間が、豊かな音色を奏でているように感じられる。〔篠崎 健一〕



38 集住デザイン

新宿には子供達の学びの場がなく、待機児童が問題としてあります。新宿御苑というのどかで伸び伸びと育つことができる場所に大人達の仕事場と子供達の学ぶ場がある集合住宅を提案します。子供達は大人達の仕事しているかっこいい姿を見て将来の夢を持つことを覚え、大人達はキッチンや仕事場から子供達を見守り、時には自分の仕事を沢山の人の知って頂く機会も得ることができます。



厚澤 くるみ (あつざわ くるみ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:山中 祐一郎、中川 エリカ

指導教員名:山中 祐一郎、中川 エリカ

教員推薦 コメント

オフィスと住居をホラクラシーに配置し、ボラスな形態の内側に生じる空洞にはパブリック(遊び・学びの場)をあて、子育てや職住近接という身近な課題を解決しようという提案。積み上げられた空洞が導く空間体験が、生活や仕事の環境として豊かさを創る可能性を推したい。〔山中 祐一郎〕



39 代官山コンプレックス

佇んだり寄り道してみたり、代官山の散策性を踏襲した高い自由度を有する人工地盤を積層させ、機能が異なる3つの世界を作り出す。境界でありながら境界ではない二面性を持つこの人工地盤は、地盤を介する地下住宅や、欠けた地盤からの視線や音のつながりなど、区分されながらも人工地盤が存在することによる多様性と適度な距離感を保っている。



伊藤 茉奈 (いとう まな) 日本大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年 出題教員名:今村 雅樹、今村 水紀、永曾 琢夫、木島 千嘉、小泉 雅生、佐藤 光彦、篠崎 弘之、武富 恭美、塚田 修大、野島 秀仁、馬場 兼伸、廣部 剛司、古澤 大輔、寶神 尚史、水野 吉樹、山中 新太郎 指導教員名:佐藤 光彦

教員推薦 コメント

代官山に人工地盤を導入することは、いささか乱暴に思えるかもしれないが、これまでのまちなみのスケールや空間を引き継ぎながら、新たな都市生活の場となる環境を提案しており、意欲的で完成度の高い設計となっている。〔佐藤 光彦〕



40 公園を望む働き人の家

クリエイターのために設計されたこの住宅は、彼らの創作のスペースと一体のシェアオフィスから構成されている。シェアオフィスを設置することで外部から来る人間との交流が促され、新たなアイデアやビジネスが生まれる。一階に店舗としても利用できるフリースペースを設けることで、新たなアイデアやビジネスを地域に発信し、地域そのものを盛り上げていけるのではないかと考えた。



川内 俊太郎 (かわうち しゅんたろう) 日本大学

理工学部 海洋建築工学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:新田 知生、桔川 卓也

指導教員名:小野 和幸

教員推薦 コメント

職住が密接につながり、場の重なりを適度な距離感を持って構成することで内外がゆるやかに連続し、地域との接点となる場の魅力を思考しながらこの街に相応しい生活の場所を見出すという熟慮ある提案を評価しました。〔小野 和幸〕



41 宮代町の小さな家

敷地には、大きな桜の木があり、周りが開けているので家のどこにいても自然を感じられる住宅を提案した。台所を1階の中心に配置することで、春は桜の木の下でお花見をしたり、夏は畑で育てた野菜を食べたり、秋は紅葉や月を見たり、冬は雪や星を見たり、季節ごとの自然を感じることができる。好きな所で好きな景色を見ながら自然を感じる、心の豊かさを育てることができる住宅である。



梅田 茜 (うめだ あかね) 日本工業大学

建築学部 建築学科 建築コース／2年

課題出題時学年:1年 出題教員名:吉村 英孝、西本 真一、佐々木 誠、安野 彰、工藤 良子、倉林 貴彦、小林 佐絵子、比護 結子、平林 政道、三家 大地
指導教員名:佐々木 誠、比護 結子、三家 大地

教員推薦 コメント

敷地に生える枝振りの良い桜を頼りに、切株や年輪に着想を得た有機的なフォルムをつかって、農と共にある暮らしの場に馴染ませることを狙っています。粗削りではありますが、それを捕うほどの強い印象を残しました。〔吉村 英孝〕



42 街とくらす集合住宅

従来の住戸を解体し、生活の要素ごとに適した配置や空間の大きさを与えることで、自室で完結しない住まい方を提案する。高さの同じ棟をスラブの分割数を変えることで階高の違いを生み出し、流動的な経験を可能にする。パブリックとプライベートのグラデーションの中で、居住者が生活を共有しりしなかったり、選択しながら暮らす。都会の中で"街と暮す"ための集合住宅である。



小口 真由 (おぐち まゆ) 日本女子大学

家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年

課題出題時学年:2年
出題教員名:宮 晶子、東 利恵、稲垣 淳哉、武田 清明、針谷 将史、寶神 尚史、片山 伸也 指導教員名:武田 清明

教員推薦 コメント

共同住宅の既成概念を打破る提案である。各住戸の領域区分が曖昧で、専有床は存在するが水平移動で渡るたび皆で共有する床へと移り変わる。一人でいたい、皆で過ごしたいという日々移ろう気分に合わせて個と共の居場所を自ら決める。内部で各領域にじみ溶け合い、ぼんやりとした境界の中で住まうという、かつてない共同住宅である。〔武田 清明〕



43 都市部に建つ戸建て住宅

素直に作ってみたいという思いからクライアントの要望を秘密基地に設定。住宅街の中で隠れるなら家と家の隙間、路地裏が秘密基地の役割をする。家の中心に取り込んだ路地裏を挟むように大きなキッチン、開放的な仕事場、寝室、水廻りを配置。傾斜の頂上のため、人目を気にせず大開口の吹き抜けを確保。どこの町にもある切妻屋根でカモフラージュを施し、住宅街に秘密基地を作りだした。



板野 雅也 (いたの まさや) 文化学園大学

造形学部 建築・インテリア学科／2年

課題出題時学年:2年
出題教員名:谷口 久美子、高橋 正樹、久木 章江、渡邊 裕子、種田 元晴、井上 瑠子 指導教員名:井上 瑠子

教員推薦 コメント

課題条件に対応しつつも、「住まい」に求める根元的な想いを察知した事と、都市を歩けばすぐに出会う路地の非社交性とうらはらに路地裏に潜む心地よさが、その想いを受け止める空間造りに至った点を評価する。〔井上 瑠子〕



44 大きな(家)

ポストコロナ社会で住宅に求められるものは、気持ちの切り替えができる空間と多様性だと考えた。東久留米はまち自体が大きな共有空間であるような、川や畑に恵まれた土地である。その豊かな土地性を生かして、この集合住宅では小さな共有空間をつくることを目指した。隙間に生活が溢れ出し、隙間から景色が切り取られる。



木嶋 真子 (きじま まこ) 法政大学

デザイン工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:3年
出題教員名:渡辺 真理、下吹越 武人、津野 恵美子、稲垣 淳哉
指導教員名:下吹越 武人

教員推薦 コメント

短冊状に分割された住宅地の建ち方に対し、住宅間の隙間を少し広げて内外をつなぐ共有空間をつくり、新しい集合のかたちとして街に開いた。見慣れた風景に生活がはみ出して楽しげな街並みを形成する魅力を評価した。〔下吹越 武人〕



45 Qのひろば再開発プロジェクト

敷地は前橋市の歓楽街と文化エリアの境界にあり、バブル崩壊以降やや寂れた雰囲気が続いてきたが、住民の地元への愛着は大きい。そこに、新たに建てる集合住宅を前橋の特徴である路地や急遽現れる空き地、生活の様子をモデル化し、再構築する事で、前橋の新旧の住民にとっても親しみ易いものになるように考えた。



安部田 夏帆 (あべた なつほ) 前橋工科大学

工学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、青木 弘

指導教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、青木 弘

教員推薦 コメント

「昨今地方都市では移住促進を進めているが、新旧の住民の温度差をどう最小化できるかが問われている。安部田案は路地に着目し、あらかじめゆるやかにデザインしておく事で、滑らかに時をつなぐ試みとして評価できる。」[石黒 由紀]



46 仕事場のある住まい

人通りが少ない住宅地の一角に、地域に開放された庭を持つ仕事場のある住まいを提案する。フラワーショップ兼住宅という建物で、段々になった屋根を上っていくとサンルームにたどり着く。外からでも住宅内からでも中庭が見え、住空間のプライバシーも確保した。生き生きとした植物に囲まれ気持ちの良い生活ができる。この場所が地域の交流の場となりこの街の活性化に繋がっていくだろう。



富田 ひより (とみた ひより) 前橋工科大学

工学部 総合デザイン工学科 / 3年

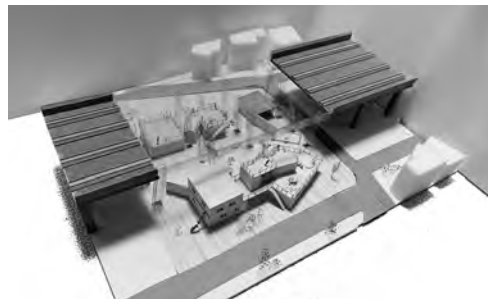
課題出題時学年:2年

出題教員名:進士 茶織

指導教員名:進士 茶織

教員推薦 コメント

「生活と密着した小さな生業のあり方が、極めてフラットで抑揚のない新興住宅地に、文字通り彩と起伏のある場をもたらしている。たった1軒の住宅に街の空気を変える可能性があることを示してくれた。」[駒田 剛司]



47 空間要素ヲ考える／空間要素カラ考える住まい

大学生と、吉祥寺の高架下を通園・通学することもたちで作る基地のような住宅を提案した。時間や時期ごとに住まいのカタチ、住む人、遊ぶ人が変わっていく。学生たちの基地でもあり、いつもは暗い高架下に「帰り道、高架下遊びに行こう」とこどもたちの居場所になる基地の提案。



田中 佑朋 (たなか ゆめ) 武蔵野大学

工学部 建築デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:伊藤 泰彦、大塚 聡、岡田 雅人、松尾 宙、市川 竜吾

指導教員名:伊藤 泰彦、大塚 聡、岡田 雅人、松尾 宙、市川 竜吾

教員推薦 コメント

「ステイホームを逆に、「自ら問いを立てる」ことを求めた課題です。住まいの公共性というテーマ、細かな住人設定からのアプローチ、実施プロジェクトのカウンターパートとも思える敷地の切り取り方を評価しました。」[伊藤 泰彦]



48 選択敷地型住宅プロジェクト 一住宅+αの新しい可能性を提案するー

コンパクトシティ計画やダイバーシティ計画が想定される現在、密集する首都圏における極小敷地に新たな都市型住宅のビルディングタイプを模索する。都市部において顕在化する住宅スケールから逸脱した都市的エレメントを+αとし、住空間とともに構築することによって都市に対しダイレクトに住むという感覚の獲得を目指し、過密都市における極小敷地の住宅を建築する可能性を提案する。



二又 大瑚 (ふたまた だいご) 武蔵野美術大学

造形学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:布施 茂、青木 弘司

指導教員名:布施 茂、青木 弘司、三幣 順一

教員推薦 コメント

「敷地選択型住宅プロジェクト」の課題に対して、敷地条件と計画内容が秀逸に設定された提案。設計内容、プレゼンテーションとも高いレベルであり、都心の極小敷地における建築の新しい可能性を提示した作品である。」[布施 茂]



49 今日の共用住宅(シェア住居)

君の家はエンマ!エンマと暮らすマンション間魔(エンマ)と共同生活を送りながら尊厳ある生と死を目指した単身高齢者限定の共同住宅。間魔を1階に記することで住民には「心の支え」、参拝客には観光名所、地域住民には憩いの場となる。個々の独立した生活空間を守りながら、他者との交流もできるためライフスタイルを自分で決めることができる。最期まで人間らしい生活を送り笑って死んでほしいという願いを込めた。



菊池 優香 (きくち ゆか) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕
指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

教員推薦 コメント

作品は、単身の高齢者が自立しながら、快適に住める共同住宅の提案です。建物の中央部にコモンスペースを計画し、住民達の憩いの場を作っています。コモンスペースと外構は地域住民にも開放され、地域との関わりにも配慮しています。〔塚原 光顕〕



50 多様な国籍の学生が混住する学生寮

国際学生寮では学生間の交流とプライベートな空間が両立できることを目指した。そこで、個室にメゾネット型を採用し、一層目を外に開けるショーケースの空間、二層目を完全なプライベート空間とした。基準階はなく、様々な大きさ・環境の違う共有部やテラスがあり、多様な場所を生み出している。国際学生寮の多様な人、住まい方に対応して、異なる環境や住み方を提案する。



坂巻 亜弥 (さかまき あみ) 明治大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:山本 俊哉
指導教員名:青井 哲人

教員推薦 コメント

メゾネットの個室を、雁行型の路地、小さな居間や空き地のような場とともに立体的に展開・積層させた国際混住学生寮の提案。小さな要素群とわずかなルールによって個と集合の懐深い関係をつくる点が傑出している。〔青井 哲人〕



51 更新する学生寮

「更新」というワードにはコミュニケーションの更新→空間の更新→場の更新と様々な意味合いがある。ものづくり大学敷地内に広場、路地をコンセプトとした交流を深める40住戸もの学生寮を計画。住空間を展開しつつ、ものづくり大学生の扱い慣れている材料を用いて、自分達の場を自由自在に変化させることができる。学びの場でもあり、ものづくりを始めるきっかけとなる。



小池 健藏 (こいけ けんぞう) ものづくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:岡田 公彦、長谷川 欣則
指導教員名:岡田 公彦、長谷川 欣則、今井 弘

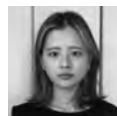
教員推薦 コメント

学生が出会い集うためのさまざまな隙間を構造体により設けつつ、自分たちでその隙間を立体的に拡張していける案である。周辺環境を生かした、オモテの居室やコミュニティとウラの離れとの関係性が評価された。〔岡田 公彦〕



52 自然のなかの居住単位

自然の中に存在する人間の住まいは、環境に応答することはもちろん、豊かな生活の営みや人間同士の行動の場を確約すべきではないだろうか。そこで人間が住み集う都市空間に着目した。空間や行動が広がり、交差する都市のような空間に対し、自然が様々な接し方をする。ときに厳しさを与える自然に対峙できる人間のための住まいとなる。



榊 真希 (さかき まき) 横浜国立大学
都市科学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:藤原 徹平
指導教員名:藤原 徹平、富永 美保、萬代 基介

教員推薦 コメント

この作品は、自然の中に人間の住まいの原型を描こうというプロジェクトです。練られた平面図を見ていくと、自然と人間の関係だけではなく、人間相互の関係の重なりが、つくる豊かな生活の実像が浮かび上がってきます。〔藤原 徹平〕



53 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい -Activate Waseda-

公園化予定地である住宅街に公園化計画の起点となる集合住宅を設計した。敷地は大規模な公共公園(戸山公園箱根山地区)と大学の間に位置し、キャンパス間を繋ぐ抜け道にもなっている。庭と公園の間に、人々がそれぞれ異なる距離感で接するための緑地を「間合いの緑地」として定義し、それらを集合住宅に入れ込んだ。曖昧な緑地が多様な人々を受け入れ、混ざり合う場として機能する。



笹原 瑠生 (さはら るい) 早稲田大学

創造理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:有賀 隆

指導教員名:小林 恵吾

教員推薦
コメント

将来的に公園となることが計画されている住宅地において、多様な庭を配した集合住宅を設計することで、一向に進まない公園化が、逆に住うことにより徐々に庭が増え、公園となっていくことを提案している面白い作品。〔小林 恵吾〕

第20回 住宅課題賞2020 建築系大学住宅課題優秀作品展

主 催:一般社団法人 東京建築士会
企 画:東京建築士会 事業委員会
後 援:公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
特別協賛・作品集発行:株式会社 総合資格
協 力:公益財団法人 ギャラリー ユー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]

企画・編集:鷺海浩康、梅津洋佑 / 一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作:株式会社 ケシオン
発 行:一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階
[T E L] 03-3527-3100 (代) [F A X] 03-3527-3101
[E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp
[U R L] <https://www.tokyokenchikushikai.or.jp>

© 一般社団法人 東京建築士会 2020

バスルームを自由にデザインする



東京バススタイルの オーダーデザイン ユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。

またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様の要望に応じてお造りしています

介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階 (建物右側の外階段より2階へお上がりください)

[営業時間] 10:30~18:00 [定休日] 日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net

総合資格学院は 正真正銘の日本一

合格実績 No.1



※建築士試験合格実績において

【正真正銘】しょうしん・しょうめい：全くうそいつわりのないこと。本物であること。〈広辞苑〉

【重要】当学院の「日本一」の表記は民間の調査機関等による特定の方を対象とした調査によるものではありません。

※(公財)建築技術教育普及センター発表の数値に基づく当学院調べ



全国ストレート合格者のおよそ3人に2人は当学院の当年度受講生!



全国合格者のおよそ6割は当学院の当年度受講生!



全国合格者の2人に1人以上は当学院の受講生!

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会(No.1表示に関する実態調査報告書)に基づき掲載しております。 ※当学院の合格実績には、模擬試験のみの受講生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科+製図ストレート合格者とは、2019年度の1級建築士学科試験に合格し、2019年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

2019年度 1級建築士 設計製図試験 卒業学校別実績

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の
6割以上は当学院当年度受講生!

当学院占有率

61.1%

卒業生合格者20名以上の
学校出身合格者合計2,032名中
当学院当年度受講生合計1,242名

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講者数	当学院 占有率
日本大学	192	127	66.1%
芝浦工業大学	110	68	61.8%
東京理科大学	95	60	63.2%
早稲田大学	88	34	38.6%
近畿大学	66	43	65.2%
法政大学	60	40	66.7%
明治大学	60	41	68.3%
工学院大学	57	33	57.9%
九州大学	53	29	54.7%
千葉大学	49	28	57.1%
京都工芸繊維大学	48	28	58.3%
東京電機大学	48	28	58.3%
神戸大学	46	28	60.9%

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講者数	当学院 占有率
名古屋工業大学	46	33	71.7%
名城大学	46	29	63.0%
東海大学	45	28	62.2%
大阪工業大学	43	29	67.4%
東京都市大学	43	31	72.1%
新潟大学	41	29	70.7%
愛知工業大学	38	24	63.2%
京都大学	37	17	45.9%
熊本大学	36	25	69.4%
金沢工業大学	34	19	55.9%
立命館大学	34	20	58.8%
横浜国立大学	33	20	60.6%
広島工業大学	32	16	50.0%

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講者数	当学院 占有率
東京工業大学	32	16	50.0%
北海道大学	32	18	56.3%
信州大学	31	21	67.7%
関西大学	30	20	66.7%
福岡大学	30	16	53.3%
大阪市立大学	29	14	48.3%
大阪大学	29	17	58.6%
東京大学	29	14	48.3%
東洋大学	29	24	82.8%
千葉工業大学	28	17	60.7%
広島大学	26	18	69.2%
東北大学	26	12	46.2%
鹿児島大学	25	17	68.0%

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講者数	当学院 占有率
名古屋大学	25	13	52.0%
中央工学校	24	14	58.3%
三重大学	23	16	69.6%
室蘭工業大学	23	14	60.9%
武庫川女子大学	21	17	81.0%
神奈川大学	20	13	65.0%
日本女子大学	20	11	55.0%
豊橋技術科学大学	20	13	65.0%

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」国家受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。 ※上記合格者数および当学院占有率はすべて2020年2月19日に判明したものです。

建設業界に特化した 新卒学生就活情報サイト



総合資格navi

建設関係の資格スクールとしてトップを走り続ける総合資格学院による、建築学生向けの就活支援サイト。長年業界で培ったノウハウとネットワークを活かして、さまざまな情報やサービスを提供していきます。

QRから
アクセス⇒



総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL 03-3340-2810

スクリーンサイト www.shikaku.co.jp コールセンター www.sogoshikaku.co.jp

Twitter ⇒ @shikaku_sogo | Facebook ⇒ [総合資格 社] 総合資格 検索



講座 一覧	1級・2級 建築士	1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士	1級・2級 管工事施工管理技士	1級 造園施工管理技士
	構造設計1級建築士 設備設計1級建築士	建築設備士	宅地建物取引士	賃貸不動産 経営管理士	インテリア コーディネーター
法定講習	一級・二級 木造 建築士定期講習		第一種電気工事士定期講習		宅建登録講習
	管理建築士講習		監理技術者講習		宅建登録実務講習

住宅課題賞 2020参加大学 (学校数: 41大学 / 53学科)

01. 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース
02. 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム
03. 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
04. 大妻女子大学 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻
05. 神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース
06. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース
07. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース
08. 慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科
09. 工学院大学 建築学部 建築学科
10. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
11. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科
12. 国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系
13. 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース
14. 静岡理工科大学 理工学部 建築学科
15. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 AP コース
16. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SA コース
17. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UA コース
18. 昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース
19. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
20. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース
21. 千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース
22. 千葉工業大学 創造工学部 建築学科
23. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
24. 東海大学 工学部 建築学科
25. 東京大学 工学部 建築学科
26. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
27. 東京藝術大学 美術学部 建築科
28. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
29. 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科
30. 東京都立大学 都市環境学部 建築学科
31. 東京理科大学 工学部 建築学科
32. 東京理科大学 理工学部 建築学科
33. 東洋大学 理工学部 建築学科
34. 東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科
35. 日本大学 芸術学部 デザイン学科
36. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
37. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース
38. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
39. 日本大学 理工学部 建築学科
40. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
41. 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース
42. 日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻
43. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科
44. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
45. 前橋工科大学 工学部 建築学科
46. 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科
47. 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
48. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
49. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
50. 明治大学 理工学部 建築学科
51. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
52. 横浜国立大学 都市科学部 建築学科
53. 早稲田大学 創造理工学部 建築学科

第20回

住宅課題賞 2020 建築系大学住宅課題優秀作品展

開催日時

2020年12月3日(木)~12月10日(木)
10:00~17:30(最終日は14:00まで)
土曜・日曜休館

会場

ギャラリー エー クワッド
〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1
竹中工務店東京本店1F
<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4